

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成20年2月7日(2008.2.7)

【公開番号】特開2006-170348(P2006-170348A)

【公開日】平成18年6月29日(2006.6.29)

【年通号数】公開・登録公報2006-025

【出願番号】特願2004-365060(P2004-365060)

【国際特許分類】

F 1 6 K 1/22 (2006.01)

F 1 6 K 1/226 (2006.01)

F 1 6 K 1/32 (2006.01)

F 1 6 K 27/02 (2006.01)

F 1 6 K 41/04 (2006.01)

【F I】

F 1 6 K 1/22 E

F 1 6 K 1/226

F 1 6 K 1/32 B

F 1 6 K 27/02

F 1 6 K 41/04

【手続補正書】

【提出日】平成19年12月14日(2007.12.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 5】

このような第 1 の弁棒 1 3 の飛び出し防止機構により、第 1 の弁棒 1 3 がバタフライバルブ 1 0 の組み立て公差による隙間によってやや弁体 1 5 側に配置されても、第 1 の弁棒 1 3 の段差部 1 3 a にはスペーサ 2 4 が当接するようになるので、リング 2 2 は第 1 の弁棒 1 3 の段差部 1 3 a にまで到達することはない。すなわち、スペーサ 2 4 の厚みは、バタフライバルブ 1 0 の組み立て公差に伴う第 1 の弁棒 1 3 の位置ズレよりも大きいものとしている。したがって、段差部 1 3 a によるリング 2 2 の損傷が防止されて、第 1 の弁棒 1 3 とボディー 1 2 との間を確実にシールすることができる。また、第 1 の弁棒 1 3 にリング 2 2 を装着するための環状溝を形成する必要がないので、その剛性を高めることができる。